

令和5年第3回加西市教育委員会会議録

- | | | | |
|---|------|--------------|---------|
| 1 | 開会日時 | 令和5年3月29日(水) | 14時00分 |
| 2 | 閉会日時 | 同日 | 17時09分 |
| 3 | 開催場所 | 市役所 4F入札室大 | |
| 4 | 出席者 | 教 育 長 | 民 輪 惠 |
| | | 委 員 | 沼 澤 郁 美 |
| | | 委 員 | 楠 田 初 美 |
| | | 委 員 | 中 川 和 之 |
| | | 委 員 | 深 田 英 世 |

5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	千 石 剛
教育総務課長兼給食係長	伊 藤 勝
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	丸 山 常 基
教育委員会課長(未来型児童館担当)	
	井 上 英 文
生涯学習課長兼市史文化財係長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	工 藤 憲 人
図書館長	伊 藤 陽 子
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移ります。

6 付議事項

- | | |
|-------|---------------------------------|
| 議案第5号 | 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について |
| 議案第6号 | 学校医等の委嘱について |
| 議案第7号 | 加西市教育委員会個人情報保護に関する法律施行細則の制定について |
| 議案第8号 | 加西市学校運営協議会規則の一部を改正する規則の制定について |
| 議案第9号 | 加西市教育委員会事務局及び学校その他の教育機関の職員の人事異動 |

内示について

議案第 10 号 社会教育推進員の委嘱について

議案第 11 号 加西市指定有形文化財の指定について

7 議題となった動議を提出した者の氏名

教育長より、本日の議案第 9 号は人事案件であるため、加西市教育委員会会議規則第 15 条第 1 項のただし書の規定に基づき非公開とすることを諮り、出席者（5 名）の全会一致で承認を得ました。

会議の進行上、先に議案第 10、11 号から審議を行い、議案第 9 号は休憩を挟んだ後に非公開で審議しました。

8 質問及び討議の内容

議案第 5 号 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について

（学校教育課長の説明）学校保健安全法第 23 条の規定によりまして、加西市立学校の学校医、学校歯科医、学校薬剤師に次の者を委嘱したいので、委員会の議決を求めます。令和 5 年度の各学校の学校医、学校歯科医、学校薬剤師については、それぞれ加西市医師会、歯科医師会、薬剤師会から推薦を受けて、記載のとおり委嘱したいと考えています。本年度に新規で入られた方は、学校医では日吉小と北条中、学校歯科医では賀茂小、富合小、宇仁小、西在田小、泉中、学校薬剤師では九会小、加西中となっています。

教育長からの意見と学校教育課長の回答

・ 歯科医で随分と多くの先生方が変わられたのですね。

（回答）複数の学校を兼ねておられた方もあり、それを分散したりして新しく開院された方などにご協力を新たにいただいたということです。

議案第 6 号 学校医等の委嘱について

（こども未来課長の説明）先ほどの議案 5 号と同様になりますが、学校保健安全法第 23 号の規定により、加西市立認定こども園の学校医等に次の者を委嘱したいので、委員会に議決を求めます。任期は令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までで、記載の者をそれぞれ 4 園の園医、園歯科医、園薬剤師に委嘱をお願いしますものです。

教育長からの意見とこども未来課長の回答

- ・私が聞くのもおかしいのですが、先ほどの学校のように新しい方はいらっしゃるのか例年と同じなのかをわかりやすく整理して教えてください。

(回答) 委嘱する者ですが、昨年どおりで変更はございません。

議案第7号 加西市教育委員会個人情報保護に関する法律施行細則の制定について

(教育総務課長の説明) 内容についてですが、平成15年に公布された個人情報保護法という国の法律がありました。この法律は民間、行政機関、地方自治体というそれぞれの主体に応じて、それぞれ個人情報保護法、行政機関個人情報保護法、独立行政法人等個人情報保護法というように三つの法律に分かれていました。

国において令和3年にこの三つの法律を一本化するという改正になり、国及び行政機関、独立行政法人等では令和4年4月1日から施行し、地方自治体についても令和5年4月1日から施行になります。そのように官民、それぞれの行政組織の対象主体を一元化する改正になりましたので、加西市においても国の法律に基づき、加西市の個人情報保護条例、加西市教育委員会の個人情報保護に関する法律施行細則について改めます。国の法律の枠組みが一本化されたこと、また国も自治体も民間も同じルールで運用されることになりましたので、その趣旨で教育委員会の細則を改正させていただきます。

教育長からの意見と教育総務課長の回答

- ・今回の改正では我々にとって何が一番変わったのか説明してください。

(回答) 法律そのものは個人情報を適正に扱うということで、内容そのものは変わっていません。ただ、今説明させていただいたように、同じ個人情報を扱うにしても行政や民間組織という主体によって、それぞれの法律に基づいて取扱いが異なっていましたので、それを一本化するというのが今回の大きな狙いです。

- ・そのことによって行政側、特に教育委員会として、前はそうでなかったけれど、今度からこういうふうになるという具体的なことはあるのですか。

(回答) 個人情報の取扱いを適正に処理するという点においては変わらないところであり、変わったのはルールが一本化されたこと、それともう一つの大きな変更点は、将来を見越した個人情報の取扱いという点です。平成15年に国の法律ができた当時は、個人情報、いわゆるデジタルデータの取扱いというのは今の規定ほど

厳密ではありませんでした。しかし、今の時代を迎え、国や自治体、民間が同じルールで個人情報、デジタルデータの取扱いを厳密に、しっかりと適正に運用しているということ、さらに細かく規定されております。

議案第8号 加西市学校運営協議会規則の一部を改正する規則の制定について

(総合教育センター所長の説明) 加西市学校運営協議会規則の一部を改正する規則を以下のように制定したいので、委員会の議決を求めます。このたびの改正は令和5年4月より市内各小・中・特別支援学校に学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールを導入するに当たり、規則の一部修正と委員報酬に関する事項を定める必要があるため行うものです。主な改正点としては、法律の改正に伴い第3条第3項を削り、第11条に委員の報酬及び費用弁償について別に定めることを加えました。

教育委員からの意見と教育部長の回答

- ・報酬及び費用弁償に係る規定のところ、1条から4条まで趣旨、報酬額、費用弁償、委任とあります。報酬についてはいろいろなところを見ましたら大体年間1万円前後が多く、割りやすいように1万2,000円にされたのかと思って見させていただきました。ただ、こういう場合、報酬の支払い時期については書かなくてよろしいのでしょうか。契約を結ぶときには、普通は金額と一緒に大体いつ払うということ、これを契約の中に入れるのですが、こういう規程の場合はどうなのでしょう。例えば6月に途中退任され、途中の7月から新任で上がった場合、どういうふうにされるのでしょうか。年度末の3月末を待って千円単位で振り込まれるとかが分かりません。そういうことはここには書かないものなのでしょうか。

(回答) 費用弁償と報酬の規定では支払い時期というのは通常あまり書かないものです。教育委員さんがまさにおっしゃっていたとおり、途中で退任や就任されるようなことも踏まえて、一般的には最終的に年度末で支払われることが多いです。あと、考えられる手だてとして、税の関係で年内のものは年内に支払うというような配慮が必要な場合もあつたりしますが、基本的には事後の報酬支払いが多数という状況だと思います。

- ・税の関係ということなので、これは給料ではなく10.21%の対象となる報酬ということになるのですね。市のほうの規定と一般的な契約との差異があるかもしれないので、確認のためにそこを質問させていただきました。

(回答) はい。うちから年末か年明けに支払い調書を切るようにしています。

議案第 10 号 社会教育推進員の委嘱について

(生涯学習課長の説明) 社会教育推進員設置要綱第 3 条及び第 4 条の規定により、次の総数 167 名を社会教育推進員として委嘱したいので委員会の議決を求めます。各町区長、自治会長より各町 1、2 名の推薦をしていただき、選出されました。任期は令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日までの 1 年間です。

教育委員からの意見と各課長の回答

- ・社会教育推進員の仕事としては、私の知る範囲では、町の人権講習会や私の村なら三世代グラウンドゴルフ大会とかがあるというのは、分かっているのですが、ほかに社会教育推進員の方はどういう仕事をされているのですか。

(回答) 教育委員さんが言われるように、主に地域で決められたことをしていただくということで、選出の際に依頼しているのは、町で世代間の交流事業をされる場合の中心者になっていただく、青少年活動の活性化に協力していただく、地域コミュニティ活動の活性化という 3 点に加えて、公民館との連携ということもお願いし社会教育推進員さんを選出してもらっています。ただ、地域の実情によって異なり、社会教育推進員さんのお仕事をきちんと決めていらっしゃる場所もあれば、流動的などころもあるというふうに伺っております。

- ・社会教育推進員は見てのとおり人数が非常に多いから、例えば 3 町に 1 人というふうにもう少し人数を少なくして、その分だけ要領よくやっていったらいいのではないかと思います。仕事をもっといっぱいあるのであれば、これだけの人数でもいいと思いますが、年に 1、2 回しか活動がないので、少し人数が多いのではないかと私は感じました。その辺はどう思われていますか。

(回答) 先ほど申し上げたように、社会教育推進員さんがされているお仕事の内容は、町によって違うということは把握をしています。社会教育推進員さんの見直しをするということで、何度か検討したのですが、どうしても各町が同じ内容のお仕事をされているわけではないという実情がネックになりまして、新たなお仕事をお願いするにしても、地域の方々との協議の上でということになります。検討事項として教育委員さんの言われた 3 町を 1 名にまとめるといった人数を削減することについては、先ほど申し上げたように、各町で社会教育推進員さんの役割を決めてもらっているという実情で、今まで検討したことはありませんでした。

- ・先ほど社会教育推進員は青少年育成を兼ねると言われていましたが、青少年補導委員というのも別にいらっしやいますよね。

(回答) 町によって役割が変わると伺っています。

- ・私の町ではこうした社会教育の推進をするのは、区長を初めとする役員会が主体であり、そこが中心となってやっています。私の町の社会教育推進員は本当に年に1、2回だけ、それも半日で終わってしまうような仕事量ですので、もっと人数を減らして充実した活動をしたほうが、地域の活力としてはいいのではないかと思います。今回については仕方ないと思いますけれど、これからはそういうことも踏まえて少し人数のことも考えていったらいいのではないのでしょうか。また、ふるさと創造会議というのもあることですし、少し人数が多いかなというのが私の思いで、少し意見だけ言わせてもらいました。よければ検討していただければと思います。

(回答) ご意見ありがとうございます。

- ・私は区長経験者として町に社会教育推進員さんがいてもらうほうが頼みやすいし、一応そういう人権の会もそうですし、私の町では運動会などの行事の企画を頼んでいるので、もし隣の町にしか社会教育推進員がいないということになると頼みにくくなると思います。また、九会地区の場合、年末のハッピーバルーンのときにクリスマスツリーを作るのですが、それに各町の社会教育推進員さんに声をかけてできるだけ集まってもらっていますし、その他でも連携しているので、逆に私は町に1人はいてほしいです。まあ、大きい町で2人いる推進員を1人に絞れるかどうかというのはあるかもしれませんが、最低1人は町にいてほしいと思います。
- ・地域によって違いますね。私の賀茂地区では役員と区長さん、ふるさと創造会議が中心となってやっています。今私も役員をやって4年目になりますが、村に役員が7人いて、こういう仕事は私たちに回ってきて、その7人でほぼ仕事をしてしまうのです。だから、推進員さんが顔を見せるのは年に1回あるかないかです。そこは深田委員さんも言われたように、地域によって違ってくると思います。賀茂地区は役員が全部やってしまいます。
- ・町によって考え方が違うから、それを一緒に議論するのは難しいと思います。
- ・教育長の意見：逆に言えば、もっとオープンに前向きに、社会教育推進員さんたちでまとめながらやっていくというのも一つのやり方ですよ。今聞いていて思ったのですが、昨日、公民館・オークタウンあり方検討委員会の最終回がありまして、例えば公民館ボランティアを募集してもっと公民館を活性化させようという意見も出され、大変良いアイデアだなと思いました。もちろん本当にボランティアをやりたいという方が来てくれるのはいいことなんですけど、社会教

育推進員さんがこんなにたくさんいらっしゃるのなら、公民館のボランティアなんかでも、もちろん無理やりボランティアはできませんけれど、そういう意識を多少とも持っていらっしゃる方たちなので、みんなで集まって公民館ボランティアとして提案をしていただくなり、いろいろなことをやっていただけたらいいなと思いつながら聞いていました。

社会教育推進員という名前だけでは、確かに中川委員の言われるようなことも起きるでしょうし、深田委員のところでは一緒にやっておられるので、結構お仕事も多いでしょう。そこら辺は各町にお任せみたいになっているので、まあそれが自治ということから言えば本当は良いことなのですけど。

- ・やり方もかなり違うのかと思います。名簿を見ていると、例えば区長をのいた後の人がされる町もあるし、結構若い方をお願いしている町もあります。そこを検討するととなるとやはり時間が要ると思います。

- ・社会教育推進員をまとめているのが社会教育委員さんになるのですか。それとも、別のものになるのですか。

(回答) 各町になります。

- ・教育長：窓口だけ生涯学習課がしているということですね。

(回答) 同じことの繰り返しになってしまいますが、町や校区によってふるさと創造会議に社会教育推進員が参画されているところもありますし、中川委員さんが言われたような地域もあると伺っております。だからといってそのまま手をつけなくていいとは思っていませんが、各町をお願いしてから長い年月がたっており、それぞれの地域で役割の在り方が確立されているところでもありますので、「はい、来年からこうしてください」と言うのはかえって混乱を招くことが予想されますから、本当に見直しをしていくには丁寧にする必要があると思っております。

先ほど教育長が申しました公民館についての意見もあり、確かにいろいろな意味でお力を貸していただける人たちであると思いますが、それを社会教育推進員の役割と決められたというような捉え方をされると、いろいろな軋轢が起きてしまうということもあります。今は私を含め、担当者との話の域を超えていないのですが、見直しをしていかなければならないことと考え話し合っております。それについては公民館・オークタウン加西のあり方検討を受け、なお一層考えているところであり、本日のところは回答できかねます、申し訳ありませんが、ご意見として承ります。どうもありがとうございます。

- ・とりあえず、社会教育推進員さんの位置づけをどうするかということです。4月か

らコミュニティスクールも始まりますし、あとふるさと創造会議の中でも社会教育推進員の位置づけというのがあるので、そこら辺の位置づけがしっかり把握できれば、社会教育推進委員さんも「こういうことをしないといけない。やっぱり地域のためにやっていかなければならない」という意欲が出てくるのではないかと思います。今のままだと、「ああ、これだけだから、もういいわ」っていうような方が結構多いのではないかと思います。うちの町ではそんな感じが見受けられるのですが、先ほどの話では深田委員さんのところではハッピーバルーンなど活発にされています。地区により様々であるとは思いますが。

それで、社会教育推進員はこういうことをするというところを明確にしていく必要があるのではないかと思います。私が推進員に選ばれたら、こういう仕事でふだんはこういうことをやっていくということを念頭に入れて活動していくと思いますが、実際、この百六十何名の社会教育推進員さんのうち、どういうことをするのか把握している方が、どうも少ないような気が私はします。その人数のままだとしても、仕事内容や位置づけ、こういうことをするというのを明確にしてあげたほうがいいと思います。

(総合教育センター所長の回答) コミスクも出てきたので関係するかと思って、発言させていただきます。実は同じようなことで我々総合教育センターも困ったことがあります。それはPTA、健全育成、町の子ども会、町の補導委員会、そして今話している社会教育推進員についてで、それらを1度、整理しないといけないということで動き出して、地区の代表と少し話し合ったのですが、かなり難しいことがわかりました。というのも、今言われているようにそれぞれの町で仕事や役割、行事等が全然違って、PTAの役員にしても、多くの仕事や役割を担っている町とそうではないところ、健全育成でも催物を多く担当している町とそうでないところがあります。また、同じ役割でもこの町ではどこの委員、この町では別の委員がやっているというふうに、役割が違ってそこが議論になってしまい、本来の話し合いができない状況にあります。

それを今中川委員さんが言われたように区長会か何か全員で統一させるとなると、それぞれの町の考え方や経緯があって、さらにふるさと創造会議や別の組織も関係してくることもあります。こういうところは昔から根強く地区で取り組んでいるところとか、そこから派生したところが違って、そこを変えたくないという地区がいっぱいあるので、自走している部分を統一するのはものすごく難しいと言われました。何度か少し調整しかけたのですが、できるところはあまりなくて、結局、会をするとしても、一般的な司会をして、全員共通の仕事の確認をして、あとは町のほうでということしかできませんでした。だから、今言われていることはすごく分かります。やろうと思えば区長も巻き込んで抜本的に更地にしていってやる必要も出て

くる可能性があります。そうなったときは町の取組によってできたいろいろな流れで難しいところがあるのかなと思います。

- ・私は一時期、PTA会長と小学校の役員、プラスアルファ青少年育成と三つの役を訳も分からないまま掛け持ちしたことがあります。でも、この三つの仕事内容からしたら余裕でできました。
- ・教育長の意見：今、社会教育推進員さんが一堂に会する総会のようなことはやっていないのですか。私がこんなことを言っただけとはいけないのですが、事情を知らずに言えば、やっているところとやれていないところ、こんなことをやれているというのがあるのなら、最初はちょっといろいろあるだろうけど、総会を開いて発表することでそれぞれが活性化したり役割を認識したりできるので、そういうことってできないのですかね。

実は、公民館については社会教育委員会でやっているわけで、もちろん社会教育推進員さんがおられるところで話をしたうえで、あり方検討委員会をしなければいけないということになったわけです。何かいろいろなことがバラバラに行われている感が私にはあって、だから例えば公民館活動にしても、これからの人生百年時代に向けて活性化させようと思えば、新しい方にも来ていただけるようにいろいろなことをやっていただかないといけません。そういうことができるような何かの動きをつくっていければ、例えばその方たちの中で公民館活動に積極的に参加してヘルプしていただくとか、そうした役割のようなものがもう少し共働してまとまることのできれば、市民の皆さんも動いていただきやすくなるのではないかと思います。

私はこの立場にいてあちこちに顔を出させてもらっているんで、今みんなばらばらに何かやっているようなもどかしさがあります。多分総合教育センター所長が言ったようなことは現実に多々あるのだと思います。「これもある、あれもある、これもあるあるで、どうするの。一緒にしようか。」と思ったら、やり方がそれぞれ違うとかですね。だから、この社会教育推進員さんが160人もいらっしゃるのだったら、その地域によって何もすることないところやいろいろやっているところがあるわけだから、区長会とかのように社会教育推進員の大会とかで、そういうのをまとめて現状を知るだけでもやってみたらと思います。

大変かもしれないですが、活動発表をしたり、講師を呼んでどうあるべきかというお話を聞いたり何かしていけば前向きに変わってくるのかなとも思います。想像するに、この役ならあまりすることないから一応名前だけ受けておこうというような人もいらっしゃるのかもしれないけれど、せつかく引受けてやってくださっている人たちなので、「一度、全体で集まって、一緒にやりましょう」という集会を開くのがいいのではないかと思います。皆さんの話を聞いていました。どうでしょう

か。

- 今、お話を聞かせていただいている、167名の推進員全員が一堂に会して何かをするというのはかなりハードルも高いかもしれませんが、例えば校区ごとの代表者がいろいろなところで集まって、うちはこのことをしているというようなお話をするのは、新しい刺激というか参考、一つのプラスになるかもしれないと思います。そういう会によって、あそこではこんなことをして、私のところはこうでという全体の交流の場になり、一つの発展にもなると思います。ただ、お仕事をされている皆さんにとっていろいろ多々ご負担をかけることがあってはいけないので、あくまで無理のない程度にすれば、社会教育推進員の一步前進になるかもしれないと思います。
- 教育長の意見：私は年に1回の区長会に出ていますが、それも大体これぐらいかちょっと少ないかの人数でいろいろな発表がされます。去年だったと思いますが、男女共同参画の講演がされて、それを聞いてほかの地区の代表区長が帰りながら「うちは遅れておるわ。あかんで、誰か女性を出そう」と言っていたらしいです。まだ女性は出てないみたいですけど。でも、そういう認識や意識ができてくるということですよ。

せつかく社会教育推進員をやっているから、やるのは大変ですけど、年に1回ぐらいはそういうことをしてもいいんじゃないでしょうか。その代り、やるからには今加西市はどうなっているかというようなプレゼンを作ったりして、まあそれは首長部局と協力し合えば作れますし、学校教育や社会教育、公民館についてこうですよという情報を知ってもらっただけでも、随分刺激になるのではないかと私は思います。

それは沼澤委員が言われるように地域ごとに行なって、それがこちらに持ち上がってくるというのでもいいですし、せつくなので何かそういうことを考えたらいと思います。中川委員が思っておられるのも、これだけの人数がいるのに何しているかよく分からないと、ほとんど機能していない状態だったら、それをつくっても形だけでしょうと。でも、なくせるかといえば、きちんとやっているところもあるので残せと。であるなら、もっと前向きにコミュニケーションできたら、うちではこういうことをやりましょうというふうに社会教育推進員さんたちは刺激を受けるのではないのでしょうか。そう思いましたので少し考えていただけるとありがたいです。
- 最初なので加西市以外も含めて過去に繁栄されたところの事例を出して、例えば簡単でもいいので社会教育推進員さんはこういうことで地域の発展のためにやっているのだという活動報告も含め、そういうのを聞くだけでも全然変わっていくのでは

ないかと思えます。

- ・やりたいことができているわけではないですが、社会教育推進員さんは町で役割を持っているので、3町で1人とか言われてしまうと少し困るなと思えます。

議案第11号 加西市指定有形文化財の指定について

(生涯学習課長の説明) 文化財保護に関する条例第3条第1項の規定により諮問を行った文化財について、加西市文化財審議委員会からの答申に基づき市指定文化財に指定したいので、委員会の議決を求めます。今回指定する文化財の名称は、八王子神社奉納太刀です。

答申文書と文化財の詳細な説明については割愛をさせていただきます。この太刀は八王子神社では戦国時代の播磨国守護の赤松政則による奉納として伝わっております。太刀には大原真守の銘が刻まれています。これは一度、江戸期に盗難に遭い、それ以降に盗難防止として刻まれたと伝わっています。大原真守の銘が刻まれているもの大原真守の作とは断定できないということではありますが、伯耆国、大原真守の活躍した時期と太刀の制作時期及び作風がほぼ一致しているという意見を鑑定者から頂戴しています。太刀は細身で腰反りが高く、平安時代後期から鎌倉時代初期の典型的な姿を呈しており、太刀肌や刃文から山陰地方の刀工の作と推定されます。市内最古の資料であり、地域の努力によって守り続けられてきた貴重な工芸品として高く評価されるということで、このほど指定に値するというご意見をいただいております。

教育委員からの意見と生涯学習課長の回答

- ・この太刀は立派なものですが、私は見たことがありません。どのように保管されているのですか。

(回答) 現在、八王子神社で保管管理をされています。今の質問と関連します。先にも申し上げますが、本来指定になるとプレスリリースを行うのですが、昨日行われた文化財審議委員会にて文化財審議委員から、公開することで盗難に遭うおそれがありますので、発表は行いますが、大々的な発表はしないほうがいいと言われております。というのも、こちらの太刀は現在、八王子神社で管理されていますが、これまでこの太刀のように地域で管理されているもの、たとえば仏像などもそうですが、そういったものは公開されると盗難に遭うという事件が全国的に発生しております。

加西市に資料館なりきちんと保存管理できる場所があれば、非常に珍しい太刀です。市民の皆様にもご覧いただきたいものであります。昨日も宮司さんから管

理するところがあれば加西市に預けたいとお話がありました。教育委員さんからのご質問はどこで管理されているのかと言う内容でした。現状、八王子神社で管理されていますので、昨今の刀剣ブームをみても報道が出た途端に狙われる恐れがあると文化財審議委員から意見がありましたので、大々的な発表は差し控えることにいたします。

- ・どのような保管の仕方をされているのですか。

(回答) 文化財の指定を受ける前は手入れされていなかったのですが、錆がきていたのですが、指定に当たってきちんと専門のところに出されて研ぎにかけられた状態がこの写真になります。その際に手入れの道具や刀箱を用意されて、それに入れて保管すると伺っています。年1、2回きちんとお手入れされれば、研ぎに出す前のように錆びることはまずないそうなので、きちんと管理してくださるとのことですので、その点は安心していただけたらと思います。

- ・管理と盗難と宮司さんはとても神経を使われていると思います。こういう刀剣はどうしても錆がきて、しまいには刃はぼろぼろになります。そうすると、加西市の本当に大事な文化財がだんだんとなくなってしまうことになりかねません。以前も西村市長に言いましたが、できたら博物館なり同等なところに保管していただけたらと思います。宮司さんも本当に大変な思いでずっと守っていらっしゃると思いますので、そういうものを造ってほしいです。今後何年も使わないと絶対に錆はきますし、ぼろぼろになってしまいには形がなくなってしまうと思います。

(教育長の回答) 刀剣というのは砥石の粉をふりかけながらお手入れしたら、そこまでひどくならないと思います。ただ、鎌倉の太刀と言えどもとても古く珍しいので、本当はきちんとしたところで公開できたほうがいいですね。

- ・今の宮司さんは管理できても、次の方はできるかどうか分からないので、やはり加西市が預かったほうが良いと思います。それを心配していますので、よろしく願いします。

9 議決事項

議案第5号 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の委嘱について

原案どおり可決

議案第6号 学校医等の委嘱について

原案どおり可決

議案第 7 号 加西市教育委員会個人情報の保護に関する法律施行細則の制定について

原案どおり可決

議案第 8 号 加西市学校運営協議会規則の一部を改正する規則の制定について

原案どおり可決

議案第 10 号 社会教育推進員の委嘱について

原案どおり可決

議案第 11 号 加西市指定有形文化財の指定について

原案どおり可決

10 報告事項

教育長

2月22日の前定例委員会以降について報告させていただきます。

まず、2月24日は3月議会初日で、行政側からの提案を行う日でした。

その日の午後には、市内中学校のトライやる発表会「トゥワイス・アワード」が、コミセンの視聴覚室に各中学校の代表グループが参集し行われました。これは初めての試みでしたので、学校教育課を初め校長先生や現場の先生方は準備にも大変なご苦労があったであろうと思いました。首長部局からはほとんどの部から部長、課長が参加しており、企業の方、そして教育委員さんたちももちろんお越しいただきました。本当にありがとうございました。これは子どもたちの意見を聞こうという動きの一つの取組であり、首長部局からあれだけ来られたのには、大変ありがたく思いました。

子どもたちにとって、社会に対する自分たちの提案や描いている夢をきちんと語るができる大変良い試みだったと思います。できればいい試みなので続けていってほしいと思います。ただ、そのとき市長もおっしゃっていたのですが、10年後には世の中に出て未来をつくっていく中学生たちですので、今年を出発点にして、次回はも

うちちょっと荒削りでもいいので調整し過ぎず、オリジナリティーのある若さいっぱい
の大きな夢を語る場になればという感想を持ちました。

次に、2月28日には定例校長会が行われ、今年度退職される6人の校長がそれぞれ
に感慨深く思いを述べられました。本当にご苦労さまと思いました。今後も加西市の
学校だけでなく、教育や行政において助けてくださることを期待します。

3月1日には、第5回女性団体連絡会会議が行われました。これは連合婦人会を初
め、商工会議所婦人会、シニアクラブ婦人部、交通安全協会女性部、更生保護女性会
の代表で構成され、私もこちらに来てからずっと参加させていただいている会議です。
正直な感想を言えば、このところとても前向きな会議が続いており、大変いいなと感
じています。いつもは消防署で行われていた子どもたちの消防体験ですが、今年は鶴
野の sora かさいの会場で開催されました。準備は本当に大変だったと思いますが、各
団体が趣向を凝らした本当に楽しい催しとなりました。もちろん楽しいだけではなく、
煙体験や消防車体験など、子どもたちにとってそうした小さいときからの防災体験は
貴重なものになると感じました。

3月2日には兵庫教育大学によるコンソーシアム報告会が新神戸駅 ANA クラウンブ
ラザホテル神戸で開かれました。もう皆さんご存じのことですが、教育委員会と兵庫
教育大学は STEAM で連携協定を結んでいます。コンソーシアム報告会にはオンライン
で参加することもできましたが、大変お世話になっていますのできちんと出席したい
と思い、神戸まで行かせていただきました。私が驚いたのは、兵教大は大変広範囲の
多分野でコンソーシアムを組んでいらして、最先端の新しい教育に挑戦しているとい
うことを実感したことです。また、その成果の発表会では、今の教育、そして兵庫教
育大学、教師志望の学生たちがどんな学びに向かっているのかというのが大変よく分
かりました。

その中にはもちろん STEAM もあるのですが、私がいつもやりたい、できればいつか
やってみたいと考えているオルタナティブ教育の一つであるイェナプラン教育など、
新しいことにも挑戦されていて、具体性もあり、それを認識できて大変よかったです思
いました。私も勉強させていただいて、改めて今、加西市教育委員会が目指している
方向性は間違っていなかったと確信できた有意義な発表会でした。そのとき障がい児
童の学習などにノウハウを持つコンソーシアムの一員とお知り合いになり、即コンタ
クトいただきました。やはりコミュニケーションは大変大事だと思います。

3月3日は加西特別支援学校の高等部卒業式で、本年は6人の卒業生が巣立ちまし
た。18歳までは何とか支えることができても、社会における人生というのはそこから
始まるわけですので、あの子たちの持っている力を社会に生かす場をどうやって確保
してあげればいいのか、どう手を打てばいいのかというのは、重大な課題だといつも
思っています。校長先生からは「今年は全員就職が決まりました」と報告を受け、ほ
っとすると同時に先生方の努力に頭が下がりました。卒業式は本当に心温まる大変す

てきな式になりました。みんながそれぞれの力を出し切って、上昇志向という意味でなく、自分たちが幸せになれるため、頑張ってもらいたいとつくづく思いました。

3月6日は3月議会の本会議2日目、3月7日は3日目でした。

また3月8日は本会議4日目でした。ふだん4日目というのは予備日であり、開かれることはあまりないらしく、私がここに来てから今まで1回もありませんでした。しかし、この3月議会は皆さんもよくご承知だと思いますが、市長の退任とか引退される市議員さんもいらして、そういう予備日を使うほど様々な議論がなされました。ある意味で西村市制12年の総決算という感じかと私は受け止めています。中学校のあり方などについて井上議員から質問がありましたので、教育長としてのビジョンをきちんとお答えしました。4日目が開かれるのは普通ほとんどないことで、午後までかかりましたが、とても熱烈にいろいろな議論がされたというのは大変いいことだと思います。市長もそのようにおっしゃっていました。

その後、人事評価委員会が行われました。この人事評価というのは、せざるを得ない状況なんでしょうけれども、正直言いまして点数で人事評価するのはどうなのかと毎年私は思います。点数によって人数も限定した形での評価になるので、私はそろそろやめたほうがいいのかなと思っている一つです。評価するなら、もっと違うやり方で、評価をすべき時代になっていると思います。

その後、さわやか市民賞の授賞式があり、北条小2年生松岡琥大朗君、北条小2年生真弓将士君、日吉小5年生高見和志君、日吉小4年生鈴木勇光君が受賞しました。とにかく最近さわやか市民賞はほとんど子どもたちが受賞することが多いので、それぐらい加西の子どもたちは美術、書道、スポーツですばらしい力を発揮しているのだと実感します。そういった意味でも学校現場の先生方が一生懸命に頑張ってくれているとひしひし感じられます。子どもたちがちょっと恥ずかしそうに、でも誇らしげに庁議室でさわやか市民賞を受賞している姿を見ると、この子たちにとってこの日の記憶は多分ずっと消えないだろうなと思います。こうした記憶と自信が必ずや人生の応援歌になってくれるだろうといつも感じます。みんな恥ずかしがりながらも、うれしそうにメダルをもらっていきます。

そして、3月9日は総務委員会が開かれ、そのときにもいろいろな質問が飛びましたが、活発に議論がなされよかったと思います。

3月10日には、倫理法人会モーニングセミナーで教育長として講演を依頼されておりました。私でお役に立つことならとお受けしていましたが、この日が近づくにつれ私は少し後悔をしました。というのも、このモーニングセミナーのために何と朝5時半にお迎えが来まして、6時からお話をすることになりました。東京で私は何十年と夜型人間でしたのでこれを聞いただけでぞっとして、果たしてそんな早朝から頭が働いてきちんと話ができるのだろうと非常に不安でしたが、事前にパワーポイントを作っておりましたので、私が着任してからの加西市教育委員会の取組をお話ししました。

皆さん結構ご存じなくて、例えば女性校長の活躍、STEAM教育、5つの無償化など、意外と知らない人が多くてびっくりしました。もっと一般の人たちに向けてお知らせしていかなければならないと強く感じました。こうした教育委員会の取組をお話できる機会があり本当によかったと思います。

その日は図書館協議会が行われました。神戸親和女子大の笹倉先生の大変前向きな取組で小学校の図書館を次々と整理してきれいにされ、あちこちで中学生向けにビブリオトークをされたりと、みんなに読書の力をつけていただいていたへんありがたいことだと思っています。読書というのは様々な未知の世界を覗くことができ、小中学生の人間形成にとっても重要なことだと思っていますので、感謝の念でいっぱいです。今回、学校はもちろん各公民館に STEAM ラボが設置されましたので、図書館は図書館のみではなく、一方でデジタルの力も活用しながら市内の学校や公民館とネットワークを構築しつつあるということは、大変いいことだと思っています。今後の発展をどんどん追求していかなければならないと思います。

3月15日には市内中学校の卒業式が行われました。私は善防中学校へ行きましたが、教育委員の皆さんもそれぞれ手分けして出席していただきありがとうございました。それぞれの学校で趣向を凝らして行われたと思いますが、善防は善防で小規模だからこそこできるような取組もあり、心温まる卒業式となりました。

その後、第3回加西市まち・ひと・しごと創生推進本部会議が行われました。私はこの会議に大変注目してしまして、いつも半歩進んで、これからの市行政のあり方を問う重要な会議だと思っています。特に今回喜ばしく印象に残ったのは、今年度の転入者人口が市政55年の中で最高になるだろうという発表でした。まだ年度が終わっていないので、多少変わることがあるのかもしれませんが、恐らく過去最高になるでしょう。これだけ人口増を目指して頑張ってきて何も変わらないというなら、悲しいものがあります。ただ、たくさんのお年寄りがお亡くなりになりますので、転入が幾ら増えても全体で言うと人口増までは行かないのですが、転入者というのは大変大事なことで、ほかから加西市を選んで入って来ている、戻ってきてくれているということです。それが市政55年の中で恐らく最高人数になるであろうという発表がされました。(千石教育部長の補足発言：転入者数は年度末まで減ることはありません。ただ、社会増は転出者との差引きであり、平成30年以来、社会増を記録していませんでした。それ以前は昭和時代にあったのみで、市制発足以来6度目ぐらいの社会増ということで社会増になるのはなかなか難しいそうです。教育長が説明されたように、今回転入者は最高値で、転出が多いと社会増にはなりません、転出はそれほど多くないので恐らく社会増も達成できるであろうという状況です。)

おかげさまで、「どうやって人口増にするか」ということで各部署がいろいろな手を打ってきたことの結果が少しずつ見え始めているのかなと思い、私は大変うれしいことだと聞かせていただきました。それで、「プレスリリースで出してください」と言い

ました。若い人の転入や5つの無償化などの影響だけではないとは思いますが、転入者が増えているというのは、例えばリタイアされた方でも加西市に来るとか戻ってきてくれば、空き家対策にもなりますね。細かいところはもう少し分析を聞いてみないと分かりませんね。

(千石部長の発言：基本的には転入者数は外国人も含んでいるので、日本人をもっての純増とは言えません。ただ、その他の情報で言えば、福崎町や姫路市を入れた北播近隣市と加西市との出入りでも差引き増になっています。従来、どうしても加西市から加東、小野方面は転出超過でした。というのも、瀬戸内側というのは基本南向きや東向きの人の流れが結構多いので、加西市の場合加古川、三木、小野、加東の方向に流れやすく、過去は近隣市と比べて転出超過の状況が続いていました。しかし、暫定値ですが今年の情報で、加東市以外の対近隣市間は全部プラスです。ただし、都会への流出は大きいという側面があり、東京圏、大阪圏、神戸圏へは転出超過になっています。

転入者では外国人のほうがウエートは高いです。そういう意味ではもろ手を挙げて喜ばしい状況かと言えば、さらなる注力も必要かと思います。ただ、活気づくためには、外国人も含めて人口の増加が大事です。じゃ、日本人がそんなに動いていないというわけではなく、こども園への入園状況などを見ると、4月以降に0から2歳児のお子さんを預けられた保護者さんは、他市からの転入者が例年に比べてうんと多くなりました。ですから、少なくともそれが動機づけになっていることは間違いありません。あとは規模をどの程度かさ上げしていけるかというのはあるかもしれませんが、教育長も言われたように少なくとも喜ばしい状況に向いていると言えます。)

なかなか結果が出ないと、何をやっても大変ですが、「やればできるやん」というモチベーションは大変大事ですので、大変うれしかったです。

その後、防火協会から各こども園に防災グッズを入れる大変立派な袋をご寄贈いただきました。

3月16日は市内公立こども園の卒園式でした。教育委員の皆さんも手分けして行っていただき本当にありがとうございました。私は加西こども園に行かせていただきましたが、小さければ小さいほど手塩にかけた子どもたちの卒園ですので、先生方は感無量のご様子でした。子どもたちは無垢な瞳を輝かせて、少しおませな子は涙をこぼしたりしながら、大変ほほ笑ましい卒園式でした。

その後、またさわやか市民賞の授与があり、富田小4年生荒木奏志君と妹の富田小1年生荒木香瑞華さんが、書道においてそれぞれ農林水産大臣賞と文部科学大臣賞を受賞したということで、さわやか市民賞を受賞しました。堂々たるすばらしい字ですごいなと思いました。加西の子どもたちは本当にみんな頑張ってくれていて大変うれしいです。でも、堂々と胸張って自慢したりしないんですね。私が「書道は好き」と

尋ねたら「うーん、まあまあ」とか、誇らしいはずなのですが、シャイなところもかわいいなと思いつつ喜びました。

翌日3月17日には、倫理法人会のモーニングセミナーにまた行ってきました。なぜかというと、前週にこの日は村田さんという枚方の教師が不登校についての講演をされると聞いていたので、また少し無理をして5時半お迎えで行ってまいりました。不登校というのは大変大きなビッグテーマ、課題だと思っています。不登校対策にはそれぞれのやり方がいろいろありますので、お話を聞いてよかったなと思いました。

その日には社会教育委員会の会議が開かれました。先ほど申しました公民館・オークタウンのあり方検討委員会の最終回が前日予定されていたので、そこで話し合っていることについての報告及び検討が主な議題となりました。あり方検討委員会については、提案がまとまりましたら教育委員さんにもご報告申し上げますが、大変いい提案が上がっておりました。始めるのが少しおそかったので期間はそれほど取れませんでした。公民館をどうしていくのかということで、回を重ねるごとに皆さんが本音でどんどん盛り上がってきました。神戸大学の松岡先生が座長になっていい提案にまとめてくださって来ました。もう少しでまとまりますので、そのときに教育委員さんたちにも見ていただければと思います。

その夕方には臨時校長会が行われました。この日の議題は人事異動です。まだ発表はできない校長留めでしたけど、このときほぼ今年の学校人事が決まり発表されています。校長会と同じ時刻ぐらいにアスティアかさいで「夢みる小学校」の試写会がありました。私も急いで試写会に行かせていただきました。

3月20日には下里小学校三ツ星カレー報告会が行われました。私はまた学校へ行くのかと思っていたのですが、STEAMラボから子どもたちみんなで自分たちの作ったカレーについて「STEAM×食育」というテーマではつらつと発表してくれました。学校教育課を初め教育委員会もみんな聞いてくれまして、首長部局からも聞きに来てくれました。

子どもたちは地産地消、調理の技術、味の秘訣、栄養などをSTEAMで探究しまして、なかなか張り切って自信をもって報告してくれました。さらに、レトルトにしたいということで、私は大変いい案だと思いました。なぜかということ、そうすれば今度は「レトルトにするには今まで自分たちが作っていたままのカレーでいいのか」、「レトルトにするためにはどうしたらいいのか。どういうハードルがあるのだろうか」、「そもそもレトルトって何や」というもろもろの課題があります。また、「幾らにしたら売れるのか」というようなマーケティングであったり、「売り場はどこにするか」といった会社との交渉もあります。「soraかさいで売ってもらったら」というときでも、soraかさいと交渉しなければいけません。だから、そういう体験もいいと思い「やれ、やれ」と言って応援しました。子どもたちの報告する姿を見て、本当に体験学習の大切さを感じました。

3月23日には市内小学校の卒業式が行われ、私は泉小学校に行かせていただきました。泉小学校では今年定年を迎えられた山本校長先生が自分の思いのたけの大変いいスピーチをされ、私は心を打たれました。面白かったのは、6年生が退場する時、まるで大学の角帽のように黄色い帽子をみんなで飛ばしたことです。それぞれの学校がみんな趣向を凝らしてしているのでしょう。すばらしいなと思いながら無事卒業式が終わりました。

そして、3月24日は3月議会最終日でした。無事、提出した全議案を可決いただきました。ありがとうございました。

翌3月25日は土曜日でしたが、午前と午後に分けて「夢みる小学校」の上映会が行われました。皆さんにご協力いただき、特に伊藤教育総務課長にはいろいろと感謝しています。説明を聞くと午前の部は申込みが多く、立ち見が出るほどだったということです。私にとっては見るのは3回目でしたが、毎回異なる感動と気づきがありました。1回目は「おお」と思いながら見て、2回目は「うーん」と思いながら深く見て、3回目はまた違う課題に気づくという、それぞれの感動がありました。卒業式で後輩に自分自身の言葉でメッセージを語りかける生徒の姿は、自由と体験学習というものがこれほど子どもたちの思考力、決断力、責任感を伸ばすものであり、自立させるものなのかと思いました。「こんなこと大人でもよう言えへん」というぐらいきちんとスピーチができる子がそろっていることは本当に圧倒される思いで、すばらしいと感動しました。

3月27日には公民館・オークタウンあり方検討委員会が行われました。

その後、加西市と株式会社 steAm との包括的地域連携協定を結ぶ調印式が行われました。前にも少しお話したかもしれませんが、この会社の代表である中島さち子さんは東大を出た後、ジャズをやっていたりして、数学を教える教育者でもあるという昔風の言葉で言えばマルチな女性です。そして、まだ若く多分40代だと思うのですが、大阪万博でパビリオン1館のプロデュースを任せられるなどいろいろされています。加西市にご縁のある方も大変お優しい方で、今回協定を締結できたことは幸いでした。

これからSTEAM教育、特に生涯学習において公民館などを使ったSTEAM教育をどのように行うかなど、ある種具体的なコンサルティングのようなこともしていただく予定です。大阪万博を目指してというわけではないですが、万博のパビリオンを任されている方ですので、まだ先ではありますけど、例えば加西こども狂言などを含めた伝統芸能を発表させていただければと思っています。加西には西在田の鬼追いやお節句もありますので、そういうのもいいなと思っています。現実を動かす力も持っている方なので、大変ありがたいです。

また、国の委員をされている方の一種の特徴なのですが、彼女も本当にオープンマインドでいろいろなことに興味を持たれ、自由にいろいろな発言をされる方です。私も国の委員をやっていたとき、最近そうした方が大変多くなってきているなと感じて

おりました。そういった方がわざわざ東京からお見えになって、今回株式会社 steAm との連携協定を締結させていただきましたので、そうして徐々にいろいろなことが変わっていけばいいなと期待しています。

教育部長

初めに、3月議会についてご報告いたします。教育長も触れられましたが、西村市長がこの任期をもって退任の意向表明をされたことも影響したと思いますが、今回本当に多くの議員から質問が出され、近年にはなかった予備日も使って審議が行われました。それだけ多くの質問が出され、我々執行者側が答弁を行いました。

まず、上程議案に対する質疑として全9名が質問をされ、うち4名が教育委員会関連の質問をされています。主立った議論として保育教諭の確保対策、加西 STEAM 推進事業、校内フリースクール設置事業、コミュニティスクール設置事業について複数の方から質問が出ており、基本、5年度予算についての審議が行われました。

次に、市政全般にわたる一般質問では13名が質問をされ、うち8名が教育委員会関連の質問をされました。こちら先ほどの話と同じく、全議員15名、議長を除けば14名ですので、13名が質問に立たれたというのは、近年では過去にないぐらいの数字になりました。主な質問は、今年度デジタル田園で整備をした図書館ネットワーク、STEAM ラボ整備に伴う事業の移ろいや変化、過去を振り返った単独調理科時代から給食無償化までの取組について、小中学校の不登校、統合中学校整備について質問がされました。また、オーガニックの活用や部活の地域移行など教育行政全般にわたり取り上げた方もおられます。

こうして3月議会は閉会を迎えましたが、5年度予算は基本全て承認されましたので、先ほど質疑の中でご説明したような事業が今年度展開されるとご認識ください。

次に、人事異動についてご報告します。3月27日に市役所の人事異動内示がなされました。そのうち教育委員会関連の管理職部分についてご報告申し上げます。丸山こども未来課長は生活環境部長に昇格されました。伊藤教育総務課長は教育総務課長と兼ねて市参事（新中学校統合担当）に昇格されました。阿木農政課長がこども未来課長に配置換えとなります。従前はこども未来課の課長補佐である小西先生は、加西こども園園長に昇格され現場に戻られます。加西こども園井芹園長は北条ならの実こども園園長へ配置換えされます。友藤こども未来課補佐はこども未来課主幹に昇格されます。ならの実こども園の河原園長は退職をされます。

教育総務課長

加西 STEAM 啓発パンフレット（案）とバックパネル（案）について報告させていただきます。

加西 STEAM 啓発パンフレット（案）は、国のデジタル田園都市国家構想交付金を活

用し作成しました。ハード事業では STEAM ラボの整備を行い、ソフト事業ではパンフレットの整備、ホームページの作成、マスタープラン作成、出前授業の開催などを行いました。6,000部の印刷を予定しており、教育の重点のように各こども園、小・中・特別支援学校のご家庭に配り、加西 STEAM の発信として子どもたちや保護者に見ていただきたいと思っております。また、5月から STEAM ラボを見たいという視察も予定しており、そうしたときにもこのパンフレットを活用していこうと思っております。

一部難しい文章もあるのですが、なるべくイメージで、加西 STEAM の描く夢や取組を見ていただけるように作りました。また、学校でも家庭でもない誰もが自由にアクセスできる、そこに行けばいろいろな人と出会える第三の場所として STEAM ラボ、公民館も含めた公共施設の在り方を目指していきたいとしています。これは昨年 11 月 STEAM フェスにおいて副市長から「サードプレイス宣言」をされましたので、そうした開かれた公共の場所という考え方もパンフレットに盛り込ませていただきました。楽しく伝えていきたいという思いで作っておりますので、よろしくお願いいたします。

もう一つ、バックパネルについて報告します。これはよく取材のバックに絵柄が載るようなものなのですが、大きさは縦横 2.3m で、今後、教育委員会で教育長賞などの授賞式で活用させていただこうかと思っております。

教育委員からの意見と教育総務課長の回答

- ・今まで教育委員会の印象は何か堅苦しい、固い感じがしていたんですけども、これを見たらすごくデザインも色もいいです。どなたのデザインですか。色使いも良く、いい感じで良いと思えます。

(回答) これは委託契約している事業者でデザインしていただきました。専門のイラストレーターの方がいらして、こういう形に作って置き換えていただきました。そういうところは事業者さんの全面的なご協力をいただいております。

- ・今、言われたように淡い色と柔らかいタッチのイラストで、何か夢と希望にあふれた子どもたちの生き生きした姿が映されているようで、本当にいいデザインだと感心して見させていただきました。大きさは A4 サイズに大きくされると言われていたので、今の見本では字が少し小さいかなと思いましたが、デザインの関係もあるのでどんな形になるか分かりませんが、A4 にされた時点でその点は改めて確認しておいていただきたいと思えます。

(回答) ありがとうございます。

- ・エレベーター上がったところにパネルがありましたけど、あれではないのですか。
(教育長の回答) あれは前の STEAM フェスのときに使ったパネルですね。

(回答) あれは幕だけですが、今回作ったパネルはフレームも用意しておりますので自立して立てることも可能です。

学校教育課長

最初に小・中・特別支援学校における学校教育活動について報告します。令和4年度の春休みに入っており、これからスタートする令和5年度に向けての報告を申し上げます。

新型コロナウイルス感染者数は随分減りました。そこで、できるだけ新学期から通常の教育活動を実施していくという方針の下、保護者通知文を発出しています。4月1日付ですが、小学校6年生には3月23日に、小学校1から5年生、中学校1、2年生には3月24日に届けています。

特にマスク着用と給食時の対策について大きく変えています。基本、マスクについては着用を求めないとし、ここに例として書いているようなマスク着用を奨励する場面において、児童生徒及び教職員に着用を奨励するとしています。もちろんマスク着用を促すことはありますが、外すことの強制はあまりせず個人の判断としています。しかし、マスクを外して子どもたちあるいは先生の表情を見ながら教育すること、指導することの重要性を改めて感じていますので、そういう場面では積極的に外せるといいということは校長会、教頭会で申しています。

会議についても事務局としてはマスクを外しましょうということで定例校長会、教頭会を持ちましたが、なかなか校長先生方、教頭先生方もマスクを外す状況はつくれませんでした。4月4日の定例校長会からは外せるようにということで、外すよう求めるよりも、その効果について理解を求めていきたいと思っています。

この資料のお断りで記載しているように、この措置は4月1日から5月8日の第5類感染症に位置づけられるところから、季節性インフルエンザと同等の扱いになるので、その辺りの方針についてはまだ国から完全なものが出ていませんから、見直しになる予定もあるという注釈をつけています。なお、本日の資料は前からの変更点分かるように、あえて見え消しにした教職員用の分を教育委員の皆さんにお配りしました。

続いて、令和5年度教育委員会計画訪問についてご説明いたします。来年度からご覧のような計画、日程で予定をしております。教育委員の皆様におかれましては大変お忙しいとは思いますが、ご予定に入れていただけたら幸いです。来年度より市指定研究会を一旦休止し、各学校で課題に応じた研究をしてもらうよう申していますので、秋口に少し余裕ができ、1学期5日間、2学期4日間というゆったりした日程を組ませていただきました。こども園と小・中・特別支援学校との日程の組合せはなかなか難しかったため、今回からは子ども未来課と学校教育課それぞれ分かれて日程調整をさせていただきました。教育委員や教育長の狙いである自由な雰囲気での管理職の対

話ということも、まだまだ固い部分がありますので、その辺りは改善を図り、より本音で話のできる場面をつくっていきたいと思っています。よろしくお願いします。

最後に、令和5年度各校オープンスクール等学校行事予定についてご報告いたします。それぞれ教育委員さんの担当地域のような形があるかとは思いますが、できるだけ広く市内小・中・特別支援学校の様子を見ていただけたらと思い、事前に各学校に調査をして当てはめたものです。これは3月1日現在のものですので、新学期が始まりましたら若干の変更点もあろうかと思えます。それで、予定通りの開催なのか、訪問の目的とされる教科や教育活動が行われるかといったあたりの確認については、大変恐縮ですが事前に教育委員の皆様から学校にお問合せいただけると幸いです。

こども未来課長

まず、加西市内こども園等における新型コロナウイルス感染症への対応方針について報告します。先ほど学校教育課長より加西市立学校における新型コロナウイルス感染症の対応について報告がありましたが、こども未来課からも同日に市内公私立園向けに新型コロナウイルス感染症への対応について発出をしております。内容は私立学校の内容と同様ですが、異なる点は以下のとおりです。まず、給食時の対応について、学校では距離1メートル程度の距離を確保するとしていますが、こども園では小さな乳幼児であり確実に対策を取れないことから、引き続きパーテーションを置くこととします。また、健康観察については、卒園式までは新型コロナウイルス感染状況の情報をいただいておりますが、それ以降は引き続き発熱等の健康観察はしていただき、症状があれば登園を控えていただくという従来どおりの運用に戻すことにしました。

次に、令和5年度入所措置児童数についてご報告します。3月28日更新の直近の入所児童数は1,217名を入所予定としております。保留というかまだ決定していないお子様は22名、受入可能児童数は0歳児11名、1歳児7名、2歳児12名、3歳児12名、4歳児14名、5歳児9名です。ただ、受入れ枠は整っており、ミスマッチということで入園決定が下っていません。例えば私立園の万和学舎中野保育園については、3名しか決まっておらず、0から2歳で10名の枠が空いているところです。また、万和学舎北条保育園についてももう少し枠があります。小規模園は新設ですので、皆さん少しちゅうちょするところがあるようです。一方、サンラインキッズは19名の定員いっぱいになっており、愛の光ナーサリーも含め、皆さんもう抵抗感なく申し込みされているようです。

次に、学童保育園入園決定状況についてご報告します。414名が入園決定されており、3年生以下は全員入れています。北条東学童では運用定員60名のところ72名を入れています。というのも、条例上の運用定員70名ですが、施設面積からの施設定員は75名まで入ります。でも、現実的にはもういっぱいのところですが、3年生までは優先入所させる規定があるため、72名を入園決定しました。また、4年生以上に

については、詳細は明示していませんが、24名の保留児童がおり、例えば家庭の事情で入園が必要な子どもは4年生以上でも優先して入園させるなどの配慮をしております。

また、夏季学童については新たな入園が見込まれます。北条東は憂慮をしておりますが、期待値であります。多少の減員を見込んでおり、夏季学童でも何とか受け入れていけるよう受入れ枠を整えたいと考えています。

それから、もう恐らく最後になるかもしれませんが、新型コロナの感染状況についてご報告します。2月には公私立園で24名の感染者があり、うち2名は職員でした。2月中、新型コロナウイルスによるクラス閉鎖はありませんでしたが、インフルエンザによるクラス閉鎖が2園で、うち1園は2クラスで閉鎖がありました。また、感染性胃腸炎の集団発生によるクラス閉鎖が1園でありました。3月には新型コロナの感染は落ち着いてきて、3月17日現在の集計では4名の感染者があり、職員の感染はありませんでした。クラス閉鎖もありません。ただ、感染性胃腸炎によるクラス閉鎖が1園に実施されました。

教育委員からの意見とこども未来課長の回答

・先日こども園の卒園式に行かせていただいたときに園長先生とお話をする機会がありました。今これを見て希望とまではいかないものの、何とかほぼ全員入園できそうだとお聞きしました。でも、賀茂幼稚園では何とか受け入れたいということで、今まで1クラスだったゼロ歳児と1歳児を別々のクラスに分けたそうですが、どうしても保育士不足でなかなか希望されている方が入園できないと言われていました。それで、先月の私の意見なども踏まえていただくなど、4月からいろいろと策を講じ、どうにか保育士さんを確保していかなければならないと実感しました。丸山こども未来課長はもういらっしゃらないのですが、次期の課長さんのほうで私の意見も検討していただいて、いろいろやりながら保育士確保していかなければならないと思います。教育委員としても4月から策を講じて頑張っていきたいと思っていますので、またよろしく願いいたします。

・万和学舎ってどこにあるのでしょうか。今から入られるのですか。

(回答) 北条保育園はアステアかさいにあり、来週の4月1日から昔お好み屋さんがあったところに入ります。中野保育園については、マックスバリュの裏にお医者さんが開院されるのですが、同じ敷地内に隣接して建てられます。

・泉学童は今工事中ですが、いつ完成になりますか。何部屋になりますか。

(回答) 7月から入居する予定です。30名ずつの2部屋で定員60名の予定です。先

ほど申し上げたように面積的には70名入る予定です。

・あの土地いっぱい建てて2部屋ですか。

(回答) 今日見に行ったのですが、今もう鉄鋼が上がっています。遊戯室はなく、保育室2部屋と職員室があったと思いますが、ほぼその大きさです。

・遊戯室はないのですか。じゃ、雨が降ったときはどうするのですか。遊戯室はあったほうがいいと思いますが。

(回答) あつたらいいと思いますが、遊戯室はございません。旧幼稚園を使っていたのでたまたま遊戯室があったのですが、学童には原則遊戯室はありません。たまたま遊戯室があるところは使っています。

教育委員会課長(未来型児童館担当)

加西市未来型児童館整備基本構想についてご説明させていただきます。加西市未来型児童館整備基本構想については、今年度、一般公募型プロポーザルにより業者選定を行い、約半年をかけて子ども・子育て会議や庁内検討委員会、教育委員会内の管理職による検討や意見を伺いながら作業を行い、このたび加西市未来型児童館整備基本構想として完成したところです。

これまで随時、進捗状況を説明させていただいていましたが、再度、基本構想について説明させていただきます。加西市の子ども、子育てに関する現状についてのまとめの説明は割愛させていただきますが、11、12月にかけて子育て世代の保護者及び中・高校生対象としたワークショップ形式の会議を3回行い、加西市の子育てに関する課題や未来型児童館に期待する機能について話し合いました。この子育てに関する現状とワークショップで出された意見から加西市の子育てには以下の三つの課題があると考えます。一つ目に、遊びスポーツについては、様々な年齢層の子どもがそれぞれやりたいことができる環境を必要としています。二つ目、学び、活動、交流については、子どもたちが様々な学びや体験をして発表できる場を必要としています。三つ目、相談支援では、様々な相談に対応できる窓口の集約化や仕組みづくりが必要とされています。

以上のような課題を解決するため未来型児童館の整備事業を考えています。そうした未来型児童館のコンセプトとしては、インクルーシブな遊び場づくり、STEAMで未来づくり、みんなに優しい窓口づくりということを施設の方向性として、未来型児童館に導入する機能を考えています。先月、導入機能のイメージ写真等をつけていましたが、ホームページから取り出したもので著作権の関係があるので、今回の基本構想には添付することはできません。少し分かりにくくて申し訳ありません。

未来型児童館に導入する機能ですが、インクルーシブな遊び場づくりとして運動す

る場所、屋内の遊び場、屋外の遊び場、休憩する場所を考えており、アクティブホールや広場等の整備を考えています。STEAMで未来づくりとして、学習する場所、活動する場所、交流する場所を考えており、実習室、学習室、DX ルーム、音楽スタジオ、ダンススタジオ、調理室、工作実験室等の整備を考えています。みんなに優しい窓口づくりとして子育て相談、進路相談、困っている人の支援を考えており、相談室、交流カフェの整備を考えています。

しかし、機能の兼用や多目的化により過大な施設整備とならないように、基本計画策定時に導入する機能について再検討を進めたいと考えております。そして、未来型児童館で全ての機能を充足するのではなく、未来型児童館をコアとして公民館、学校、公園といった既存施設と連携しながら、子どもたちがやりたいこと、学びたいこと、体験したいことができる、また保護者が安心して子育てできる魅力ある環境を創出したいと考えています。

建設候補地には、健康福祉会館と玉丘史跡公園の二つを比較評価しました。利便性、事業の実現性、利用者の目線で見えたメリットで評価し、最終的には健康福祉会館を建設候補地としました。さらに、未来型児童館の整備及び運営に係る事業手法については、設計工事をそれぞれ分けて民間に発注し運営も市が行う公設公営方式、運営については民間委託する方法、設計工事を民間事業者に一括発注し、運営は別途民間事業者が発注する方法などいろいろな手法が考えられます。この手法については、次年度実施予定の基本計画策定業務の中で決定したいと考えています。

以上が今年度策定した加西市未来型児童館整備基本構想です。来年度はこれを基に加西市未来型児童館基本計画の策定する作業を行う予定にしています。

教育委員からの意見と教育委員会課長(未来型児童館担当)の回答

- ・確認なんですけど、健康福祉会館敷地内というのはもう決定なんですか。
(回答) そちらで進めたいと考えております。
(教育長の回答) それは決定じゃないでしょう。一応今のところ我々の提案としてはそうだけれど、公式にやれているものじゃないでしょう。
- ・あの敷地内でこれらの施設内容を入れることはできそうですか。
(回答) 建物の階数にもよると思います。3階建てにするとかいうのもありますし、こちらの資料にもあるように現在こういったものを導入機能として考えていますけれども、それらの機能を兼用することで二つの使い方をする部屋にできるかも考えられると思います。この施設に全ての部屋を設けるかどうかは来年度精査が必要と考えています。

- ・これだけ充実した設備というのは、例えば STEAM で未来づくりの中の DV ルーム、音楽スタジオ、ダンススタジオといったものは、言うたらその部屋で兼用させてやっていくのか、それとも各機能の部屋をつくっていくのでしょうか。

(回答) 兼用できる部屋とできない部屋があるかと思います。例えば調理室と学習室は絶対に兼用にできません。ただ、学習室に図書コーナーを作るというような使い方であれば、できるのかなと思っています。

- ・ということは、これから健康福祉会館敷地内の構想図とかをまた出していただくことになるのでしょうか。それは今からなのですね。また、進捗のほうよろしく願います。

(回答) 基本構想はぼやっとしたものですので、どういった諸室や機能、設備が必要なのかを検討するのは基本計画になります。基本計画の中で諸室やレイアウトを含め、どの程度の規模や大きさが必要なのか検討することになります。それで、基本計画の中でこの具体像がもう少し見えてくるようになると思います。

- ・2月の定例会で頂いた資料と比べると、ワークショップのところで「本当に困っている人への情報発信ができていない」というのが今回加わっていますが、ここら辺が大事なところだと思います。例えばどういうふうに情報を伝えていこうと思われていますか。

(回答) 今使われている加西市ホームページもそうですが、それだけでなく、皆さんスマホを結構お持ちですので、LINE とかなども利用したいです。

- ・また、前は「農作地」というところが、今回「耕作放棄地」と具体的に書かれています。例えば放棄されている畑や田んぼを借りてそういうことを何か考えているのですか。

(回答) 農業体験等では有償となるかどうかというのはあるのですが、無償で貸していただける近くの田んぼがあれば、そこを使って農業体験等もできるのではないかと考えています。

- ・「耕作放棄地」という表現が要るかどうかなどは思いました。それから、一番大きいのは事業手法のところですか。従来型の公設公営というところから五つぐらいいろいろな方式が書かれています。それぞれメリットデメリットがあると思いますが、その中で現在どの方法がいいかなと考えられていますか。これから検討されていくとは思いますが、全部同じレベルで考えていないと思いますので。

(回答) またメリットデメリットについて完全には把握していませんけれども、収益性のある施設が少ないことと、時間がかかるため、PFI 方式等については若干難し

いとは考えております。また、公設公営なり、DB、DB プラス方式のほうがスピード感は早くできるのではないかと考えておりますが、だからといってこの方式というのはまだ申し上げられません。

- ・それは大丈夫です。でも、大事なところなのでしっかりと検討していただきたいと思います。これは要望です。お願いします。
- ・教育長の意見：単純に比較はできないのですが、例えばこの STEAM のパンフレットは全く新しい思考やデザインで作っているものですよ。来年度に基本計画を立てる際には、この素敵なパンフレットを作った大元の発想やデザインが入ってこない、今までなかった機能を一つの施設にいれるというのはなかなか難しいと思います。ですから、来年度に基本計画を立てるところから新しいところにも入ってもらうような方式をつくらないといけないと思います。前にもどこかで私が説明したと思うんですけど、皆さんは未来型児童館や新中学校という、箱物を建てるハード事業だと思っているんですが、そうではなくて、実はソフト事業なんです。つまりどういうものをどのように造るかということによって、ハードが決まっていけないといけないと思います。それは来年度、心してやっていきたいと思っております。
- ・人が集まるっていう場所ということで、そこが一番大事なところですね。

生涯学習課長

先ほど教育長の報告でも触れられましたが、公民館・オークタウン加西あり方検討委員会についてご報告いたします。令和4年8月17日から計6回にわたり加西市公民館・オークタウン加西あり方検討委員会を開催してまいりました。先日3月27日に最終回が行われました。今まで委員さんに討議、検討していただいた内容をまとめ、タイトルは「加西市公民館・オークタウン加西の発展のための基本計画―居場所をプラス 全世代のワクワクをプラス つながり育む学びのプラットフォームに」と題して計画をまとめています。最終回にて委員さんから最終チェックとして意見を頂戴し、現在その修正作業に入っておりますので、本日は教育委員の皆様には見ていただくことができない状況であります。

こちらの計画では、第1章で社会教育施設の現状と課題を洗い出しています。第2章では、皆さんが思う社会教育施設はどんなものなのかというのをを出していただいて、社会教育施設の近未来についてまとめました。第3章では先ほど描いた近未来を含め社会教育施設を未来に向けて発展させるため、短期的、中期的、長期的戦略に分けて取り組むべき課題を具体的に明記しています。先ほど申し上げましたように最終回でも意見が出されましたので、これからの修正と完成までについては事務局、松岡委員

長、谷勝副委員長のほうで責任をもって作業させていただくということでご承認いただいております。現在その分を作成いただいているところですが、短期的な戦略として令和5年4月から早速取りかかるべき課題も挙げられていますので、公民館とオークタウンの活性化に向け、この報告書をもって来週から早速取りかかっていたいと思っております。

教育長からの補足：報告書は、最終的にきちんとしたものにするため、本日の定例会に間に合わず本当に申し訳ありませんでした。しかし、本当に活発に意見が出されたのはいいことだと思っております。そういうわけででき次第、皆様のお手元に届くようにします。お願いいたします。

総合教育センター所長

令和4年度加西市立総合教育センター年報（第12号）について報告いたします。令和4年度の取組と今後の課題等を記した年報第12号が完成しました。事業等の中間報告等につきましては、これまでの定例教育委員会において随時報告させていただいておりますが、今回の年報をご確認いただきご意見ご感想等あれば、またお寄せいただければと思っております。なお、本年報は県下市町教育委員会、青少年センター、教育研修所及び関係機関等に届けており、一部ホームページ公開としています。今後とも関係機関と情報交換も行い、来年度に生かしていきたいと考えています。

教育委員からの意見と教育センター所長の回答

- ・そもそも年報というのは要るのですかっていうことなんです。やっぱり他市町との交流ということで作らないといけないのですか。

(回答) センター内でもその議論は頻繁に起こっています。いいかどうかは分かりませんが、我々自身にとっては振り返りをしたり、まとめて記録に残すことは大変意義があります。自分のためというのがいいかどうか分かりませんが、昨年度と比較をしたり、我々が自分たちの振り返りのために大変役立っているのです、今のところは継続しています。

- ・それなら何も言いませんが、ホームページ等で見られる状況なので他市町との交流もそういう手段とするのも可能かなと思ったんです。でも、自分たちの振り返りとして必要なものだと言われたので、そうしたら頑張ってください。よくまとまっていてよく分かるのでいいと思うんですよ。ただ、ご苦労があるんじゃないかと思っただけで。

(回答) 確かに労力はすごいです。

- ・教育長の意見：自分たちのためだけのものなのではなく、市民の皆さんに認めてもらわないといけないことなので、これだけのものを作る。これは大変ですよ。ちょっと軽くできないか考えていったらいいと思います。

図書館長

まず、特別整理期間作業結果についてご報告いたします。2月15日から28日までスマート図書館システム導入と並行して市立図書館内の蔵書点検を実施いたしました。館内にある図書資料を確認し、不明本がないかをチェックしました。併せて、3年前から不明になっている資料、汚れたり破損した資料、内容が時代にそぐわなくなった資料、保存切れの雑誌等を除籍しました。資料種別ごとの蔵書冊数及び除籍冊数は資料22ページ表のとおりです。続いて、不明本の経年比較ですが、セキュリティーゲート導入による効果なのか、昨年度から不明本は減ってきていましたが、今年度は9冊しか発生しませんでした。なお、セキュリティーゲートは、2年前に自動貸出機と一緒に導入されたものです。

続いて、図書館アンケートの結果についてご報告します。令和4年度図書館アンケートの目的は、図書館利用者及び利用しない人の意見を把握し、今後の図書館サービス充実の参考とするためです。また、本アンケートはデジタル田園都市国家構想推進交付金事業の重要な業務評価指標の一つとされています。実施形態は紙とウェブフォームで、ウェブから回答した希望者には健康ポイントを20ポイント付与する特典をつけています。実施期間については、図書館内での回答は令和5年1月28日から2月14日まで、ウェブ回答は令和5年2月4日から2月14日までです。2月4日に加西市公式LINE及び健康アプリ登録者向けに通知を送り、アンケートにご協力いただきました。対象者は図書館の来館者、LINE、健康アプリ、図書館ホームページをご覧になった方です。有効回答数は館内46名、ウェブ719名の計765名でした。

回答の内容については以下のとおりです。利用の有無については利用している62%、利用していない38%でした。回答者の多くは60代以上ですが、利用の有無は世代により大きな差はありませんでした。図書館が立地する北条小学校区の方は利用率が最も高く、回答も多くいただきましたが、反対に図書館から遠方の地区の方は利用していない割合が高くなりました。

次に、図書館を利用する人の回答ですが、利用頻度については年数回利用する人が最も多く、続いて月2、3回利用する方が続きますが、これは本の返却サイクルが2週間になっているため、継続して利用されている方ということになります。また、図書館滞在時間については、ほとんどが30分以内または1時間以内です。1時間を超えて滞在する人は14%程度にとどまっています。図書館の利用目的は、本雑誌の貸出返却が圧倒的に多く、滞在型利用では本の閲覧及び雑誌や新聞の閲覧が多くなっています。充実してほしい図書資料のジャンルについては、多い順に趣味・実用書、小説、

雑誌となっています。

図書館の満足度については、どの項目でも満足とやや満足が多く、特に職員の対応、自動貸出機、返却機、居心地のよさで満足度が高くなっています。ただし、開館時間については他の項目に比べ不満が目立ちました。満足度の項目において満足を3点、やや満足を1点、やや不満足を-1点、不満を-3点としてスコア換算をした結果、平均では17.2%となっています。

次に、図書館サービスの利用度、認知度についてですが、サービスの項目ごとに利用度や認知度について大きな差が見られます。利用しないと資料の貸出返却ができない自動貸出機・返却機や従来から実施しているサービスについては利用度、認知度は高くなっています。一方、公式 SNS やフリーWi-Fi 等の最近始めたサービス、読書手帳、キッズクラフト等のプラスアルファ要素のサービスについては、利用度、認知度が低くなっています。利用度、認知度の項目において、利用したことがあるは2点、知っているは1点、知らないはゼロ点としてスコア換算した結果、平均約12.2点となりました。満足度のスコアと利用度、認知度のスコアのそれぞれの平均を足して10段階評価にするため6で割りますと4.9となり、それを四捨五入して今回の評価は5とさせていただきます。

続いて、図書館を利用しない方の回答についてですが、図書館を利用しない理由としては、本は自分で購入する、本を読まない、自宅や職場などから図書館が遠いという回答の順になっています。また、図書館を利用する条件として、家の近くで予約の受け取りや返却ができることという回答が多くありました。これらの結果から善防、南部、北部の3公民館と総合教育センターで予約本の受取サービスや本の返却ができるようにすることで、少しでも図書館利用者を増やすことができると考えています。また、図書館から遠方の地域にお住まいの方や開館時間に不満をお持ちの方には、ぜひ電子図書館サービスをご利用いただきたいと思っています。

今回アンケートを実施して図書館を利用しない方の意見を聞くことができたことは、よかったと思っております。図書館ではこれまで何度かアンケートを実施してきましたが、館内利用者の回答しか得ることができませんでした。このたびはLINEや健康アプリ利用者に通知をすることで、図書館を利用しない方の意見を聞くことができ有意義なアンケートになったと考えています。今回のアンケートはスマート図書館サービス開始前の調査となります。来年度、再来年度にはスマート図書館サービス開始後の調査として、それに合わせた質問内容でアンケートを実施する予定にしております。

さらに、報告事項には挙げていませんが、スマート図書館サービスに関するチラシを3枚お配りしています。ぜひ皆様にも加西市立図書館の新しいサービスをご利用いただければと思っております。

教育委員からの意見と図書館長の回答

- ・今、電子図書館には大体どれぐらいの登録冊数があるのですか。
 (回答) 購入したものは約 2,200 冊、あと加西市の市史や市で作成したパンフレットなど市の独自資料が約 20 記載させていただいています。
- ・電子図書の ID やパスワードは割と簡単に取れて中に入って行けるし、返却も楽にできて好きなものが選べますが、見ていると同じ本が違う分野のところでも出てくるような気がしました。電子図書の冊数がこれからどんどん増えてくると、このアンケート結果で出た開館時間や図書館が遠いといった課題に応えられ、もっと利用者が増えてくるのではないかと感じました。
 (回答) ありがとうございます。
- ・私は図書館をあまり使わないのですが、自動貸出機や返却機というのはどういうものなのですか。
 (回答) どちらも 3 階のカウンターに置かれています。まず、自動貸出機というのはスーパーなどのセルフレジのような形です。スーパーなどのセルフレジは、商品をカゴに入れて機械に置くと、機械が自動的にそのカゴの中身を読み取って精算するというものです。図書館の自動貸出機は、借りたい本を台の上に置き、図書館カードまたはマイナンバーカードをかざした上で何冊借りたいと押すと、こんな本を何冊借りたというレシートが出てきて、貸出しが自動で完了するものです。自動返却機のほうはポストみたいな形をした本を入れる四角い箱がありまして、そこに本を入れていただくだけで返却が完了するというものです。
- ・図書館アンケートはこれまでも何度か取っていますが、来館者数は増えていますか。
 (回答) 来館者数としては少し増えたかな、ほぼ例年と同じぐらいの横ばいかなというところです。上げるために頑張っているところです。
 (教育長の回答) コロナで利用者はどんと減りましたから、今それを何とか取り戻そうとしているところです。
- ・利用者を増やすためにアンケートをされているのですか。
 (回答) それと、利用者も利用されない方も含め、皆さんが実際、図書館のサービスをどう思っているかを知るためにアンケートを取らせていただいています。皆さんの希望やこうなれば利用するのにという要望をお聞きして、てこ入れというか、図書館として工夫を凝らしてやっていきたいと考えております。
- ・このアンケートでいろいろな意見が出ているようですが、もっと利用していただく

ためにどれか参考にしたい意見はあったのでしょうか。

(回答) 例えば充実してほしい本のジャンルについて、趣味や実用書、小説、雑誌など、やはり一般的で読みやすい本を皆さんが気軽に読まれているのだと思いました。図書館としては多様な方に対応できるようまんべんなくいろいろな本を入れるようにしてはいますが、利用者がもっとあったらいいなというジャンルの本を少し多めに入れていきたいと思っています。というのも、読みたい本があれば、その分足も運んでいただけると思うからです。また、電子図書館システムを今回導入しましたので、今まで遠方でなかなか図書館に行けなかった方、時間的に図書館が開いている時間に行きづらい方であっても、おうちにいながらにして本を借りていただけるようになりますし、返却も期限が来れば自動的に返却できますので、家にいながらにして多くの方に市立図書館の本を楽しんでいただけるようになると思います。

- ・アンケートを見て私がいいなと思ったのは、カフェやキッズエリアの併設です。今は一般の本屋さんでもカフェが少しずつ増えていきますね。こういうのがあったらいいなと思います。あと、資料の充実化ということで、なかなか図書館に専門書がないので、専門の本があればいいと思います。

(回答) 市立図書館では浅く広くではないんですが、まずは多くの方に読んでいただくという目的で図書を購入しています。専門書を置くというのはなかなか難しいというのがあります。奥深い内容の本になりますと、専門知識のある方しか読まれなからです。しかし、できるだけ要望に合わせていろいろな本を入れたいと思っています。

- ・入れてほしい本があると言えば、検討していただけるのでしょうか。

(回答) 紙の本であればリクエストを承っています。3階のカウンターでタイトルやこんな本が読みたいとリクエストを書きいただければ、購入を検討します。購入できる本はそうしますし、年数がたって販売されていないなどの本の場合、その本を所蔵している近隣の図書館から取り寄せることもできます。ぜひそういう本がありましたら図書館にいらしてください。

- ・教育長の意見：本のリクエストはオンラインでしかできないのですか。

(回答) リクエストはオンラインでは受けていません。購入には費用が発生するため、本当に図書館に来て借りたいという利用者の意思表示も含めて、図書館でリクエストしていただいています。

- ・教育長の意見：それは少し古い考え方だと私は思います。多少のリスクを背負ってもオープンに開けていったほうがいいと思います。発言にもあったカフェについて

も、もちろん図書館の下の階にカフェはありますが、今はカフェでコーヒーでも飲みながら本を読めるようなサードプレイスの役割も図書館には求められているので、大事なことだと思います。検討していただきたいです。

(回答) 検討させていただきたいと思います。ありがとうございます。

1.1 協議事項

なし

1.2 教育委員の提案

- ・私から1点だけ申し上げます。先週「夢みる小学校」の上映を見まして、いろいろありがとうございました。私の感想としては、映画を見る前には何か変わった新しい教育をやっているのかと思っていたのですが、実際に見てみると、子どもたちが自ら考え、体験や探究をしながらいろいろな能力を発揮していくということで、もうまさしく文科省が薦められている2020年に変わった学習指導要領に沿った教育、また今私たちが取り組んでいるSTEAM教育だなと感じました。そこで、今からもっとSTEAM教育や子どもたちが自ら考える能力を発揮できるような指導をするには、もってこいの映画だと思いました。それで、こういう取組のレベルを上げていくには、教職員、保護者や地域の方にももっとこの映画を見ていただいて広げていかなければいけないというのが率直な私の意見です。

そこで、1点提案したいのですが、いつも7月に300人ぐらいの教職員全員が集まって講演会をされます。去年は髭男爵さんで、私は行けず申し訳なかったのですが、そういう機会に一度上映会をやったらいいのではないかと思います。アクティブライフを含めたこういう教育を学校でやっているということは知っていたほうがいいと思いますので、令和5年度に一度上映会をやっただけならという提案を私からいたします。提案なので検討いただけたらと思います。

(総合教育センター所長の回答) 研究講座についてはもうこの段階で大分煮詰めており、おっしゃられた教育講演会の計画も実は大分立ててしまいました。今年度については検討の余地として入れますが、もう中でいろいろな議論がされて決まっていることもあるので、研修講座として入れるのはもしかしたら難しいかもしれません。

- ・この映画を見ていたら、今加西市でもコミュニティスクールが始まりますし、公民館活動など地域を含めた教育があります。また、部活動などの応援事業、小小連携や幼小連携などを含め、これから先には未来型児童館での体験学習といったことをしていくので、本当にこの映画みたいなだと思いました。それを広めるということより、皆さんにこういう学校があるのだということを知識に入れていただくことが必要だと思います。一番いいのは教育講演会かと思いましたが、どこかで上映会を

ぜひやったらいいのではないかと考えています。検討をよろしくお願いいたします。

- ・最初に私も教育長に誘われて行ったので2回この映画を見たんですけども、子どもたちの体験に時間をしっかり確保しながらやろうとされているのは、十分伝わってきますし、その中で子どもたちが育っていている様子も分かります。ただ、きのくに学園は全寮制の学校ですので、例えば福井県勝山の学校では通いの子もそこで生活している子もいるような形ですが、どちらかというところまでってというのは感じます。でも、体験に時間を割いているということは分かります。

ただ、先ほど教育長も加西の子どもたちは伸びていると言われたように、下里小の三ツ星カレーの話もありますが、先生方もできるだけ子どもたちに考えさせたり、発想を大事にすることをやろうとされています。その加西市の取組のベースの上でさらにもう少し高いところを目指すため、何かヒントがないかなということで映画を見るなと思います。というのも、あれを全部受け入れようとする、逆に危険性もはらんでいるのかなと私は思うんです。だから、先生方がそういうしっかりとしたベースに立って、自分たちの取組のいいところを否定せずに高みを目指すという視点で見ただけなのだったら、いいかなと思います。ただ、全職員にしっかり見ていただくというのは少し難しい面もあるのかなというのが、私の感想です。

- ・教育長の意見：多分、中川教育委員としては、そういうことを取り組むのに一番大事なのは教師だと思っていまして、ある意味で研修としてでもそういう教師たちに見てもらったら、全部を実現するというのではなくても、その中にヒントや考えるべきことがたくさんあるということではあると私は思うんですね。
- ・先生とプラス子どもに接する親にも知っていただきたいと思います。というのも、学校でやっても、逆に家庭に帰ったら全部否定されてしまうとそれは困るので、そのときには保護者の方も結構来られますのでそういうところも議論をしながら、子どもたちにとって一番いいところを親と教師が連携しながら探すというふうな考え方になってほしいなと思っていました。
- ・教育長の意見：今回の上映会は年度末の大変多忙な時期だったので、校長先生も3～4人ぐらいしかいらっしゃってなくて、私は内心がっかりしました。また、上映会のときにも「先生は何人ぐらいおられますか。手を挙げてみてください」と言っても、手を挙げた人は誰もおらず、「問題意識をもっと持ってほしいな」と思いました。でも、多分先生方はばたばたの時期だったので、出席するのは大変だったと思います。だから、夏に先生方へ上映会をという中川教育委員の意見はいいことだなと私も思いました。映画は今の教育を否定しているわけでも何でもありませんし。

- ・文科省が推奨されている提案ですし、内容も学習指導要領に沿ったテーマなので、無理なことじゃないと思うんです。もちろん私は教師ではないですが、これを一遍にやれと言われてもできないと思います。でも、そういう学校があるというのは、先生だけじゃなく、地域の方、保護者も含め誰でも念頭に入れておくべきだと思います。教育長も言われたことですが、あの映画を見終わって伊藤教育総務課長といろいろな観点から見られる映画だと話をしました。私は1回だけですが、教育長が言われたように2、3回と見て意見が変わってきます。この前は教師の立場で見て、次は保護者の立場として、次に見ようと思えば子どもの観点としてどうなのかというように、そんなに観点を変えて見られる映画はほかになかったなというぐらい衝撃を私は受けました。

教師の方にこれをしなさいというわけではなく、この映画を見てこういう教育があるということだけは知っておいてもらえば、後々変わってくるのではないかと思います。それで、教職員の方が集まって見られる一番の機会といえば、そこしかないかなと思ったので、今回、一応提案として挙げさせていただきました。いろいろなことを考えさせられる映画だったので、可能性があればぜひ皆さんに一度は見ていただきたいと思っています。

- ・私もこの映画を見せていただいて本当に大変ショックを受けました。というのも、自分は子どもに今まで何をしてきたのだろうと、自分を押しつけることばかりやってきたなと思いました。今さらながら自分の子どもを育て変えることはできませんが、今の歳になってでもこの映画を見られてよかったと思います。この映画で何かを感じて自分が変わったらいいと思うので、先生方にも見て何かを感じていただきたいと思っています。

- ・教育長の意見：上映会の後、子ども連れのお父さんが「僕、家に帰ったら子どもに謝ります」って言われていて、本当にかわいいお父さんだなと思いました。そういうある種の自己啓発というか、今さらできるわけではないんですけど、大人の価値観そのものを問い直されるというのは本当にいいことだと思います。だから、総合教育センターで研修会ができるかは少し置いておいて、基本的には実行委員会方式でも十分できるわけですから、1回で終わらせずに前向きにいろいろなやり方も相談してやっていけばいいと思います。

今、私が伊藤教育総務課長に言っているのは、食育として一度グループの方たちが実行委員会ですしていた「いただきます2」という同じオオタヴィンさんの映画についてです。私はそれにも感動してしまって、何も別にそれがいいと思って見たわけではないのですが、自然に「わーすごい」と思っていて、とても問いかけてくる

映画です。だから、そういうものをもっと普通の方々に見てほしいととても思いました。

安富学校教育課長も上映会で見てくれていましたが、どういう印象をお持ちになりましたか。

- ・そういう学校があることは以前から知っていましたが、コロナの中でもそれを大事にやっというスタンスもすごくよく分かりました。そこで教師の意識も変わっているというコメントもありましたね。その中で何を大事にしていくかといえ、子どもにベクトルが向いていると感じました。ただ、あれが唯一無二の方法でもないですし、我々がしていることは古い慣習と言われるかもしれませんが、その場で培ってきたものがありますから、そこでどう感じていくのかというのが大事であり、自分の実践も振り返りながら見させていただきました。

皆さんが言われるようにあの映画も研修講座の中の一つに入っても本当にいいかもしれません。それとは別に工藤所長が考えてくださっている研修講座もあるのですが、その辺りは教師が求める研修講座ばかりをする必要もないですし、あえてこちらから課題を与えるような研修講座も考えていきたいので、一つの案として承りたいと思います。ありがとうございます。

- ・私の映画を見た率直な感想としては確かに先生方に見ていただきたいなと思いました。先生になられてすぐのときは多分ああいう気持ちでいらしたと思いますが、いろいろな雑務が多く、だんだんそればかりに関われない現状とのギャップがあるのかなと思いついて見ました。あれをそのまま生かせというのはまず無理だと思います。ただ、見ることで初心に戻ったり、ものの考え方が変わるということは痛切に思いました。先生方の研修講座のほうは講師の準備などもありますので、ある程度前もってしていただいて決めていかないといけないと思うのですが、皆さんが言われたように検討の余地があればそういった機会をつくっていただきたいというのが、私からの希望です。

1 3 今後の予定について

- ・令和5年第4回定例教育委員会 4月24日(月) 14:00～4F入札室大
- ・令和5年第5回定例教育委員会 5月29日(月) 14:00～1F多目的ホール

1 4 その他

- ・教育長の報告で最初に触れられたトライやるについてです。コロナ禍の中で子どもたちが今までの5日間の職場体験がなかなかできない中、課題を持ってということでも新しい方法で行ったんですけれども、何かすっかりし過ぎていっているように感じまし

た。スタッフの方がぱぱぱと言って、子どもたちがそこでしゃべっているだけみたいな感じで、その前に校内選考会が当然あったと思うのですが、そういう中で子どもたちがどういうふう考えたのかということが気になりました。

コロナがこれだけ落ち着いてきたので、5日間はちょっとしんどいですがけれども、改めて本来のトライやるをするのはどうかと思います。私が現場にいたときにも、なかなか学校に来れない子どもでも、トライやるをどないやろうということもありました。だから、こういうふうに市の課題などを浮き彫りにして子どもたちがそこに関わっていくという方法も大事な視点だとは思いますが、またその辺りでトライやるの在り方について検討というか、元のやり方が全部いいとは言いませんが、いろいろ組み合わせさせてやっていくのもいいかなと思います。

(学校教育課長の回答) 事前に私たちから事業所に趣旨を説明しました。もちろん5日間のトライやるにおいて、今回と同じような事業所に課題を提案するようなSTEAM方のトライやるというのはなかなか難しいだろうということは、こちらも認識しています。ですので、いろいろな中学教師や中学校籍の所長などに話を聞く中、教育委員の言われるように5日間事業所でお世話になるという今までのトライやるの方法もいいと感じていますので、その辺りは議論をしながらやっていきます。

実際に3日間ずっといろいろなところを回って子どもたちの様子を見ていました。私は教室の授業の姿しか見たことがなかったので、深田教育委員も言われたようにプロセスでは子どもたちがとても自由にディスカッションや議論をしており、そうした子どもたちの姿がとてもたくましく、頼もしく感じました。企業の人たちも「ああ、子どもたちはそういう発想で考えるんやな」と感じたようです。また、子どもたちは首長部局の中でもお世話になり、私は議論している最中をずっと見ていたんですが、産業振興部ではねっぴ〜Payを使って面白いアイデアを言ったりして、「ああこういう発想で実行していくと、よりよくなるんだな」と感心されていました。

確かに最後は発表会的になってしまい、市長からは「もっと思い切った発想があったらいいな」ということも言われていましたが、実際その議論の中ではそうした発想がありました。ただ、各学校のどういう意図で報告会での発表が選ばれたのかというところはなかなか難しいところですが、中身と発表できる子どもたちとのいろいろなもので選ばれたのだと思います。しかし、決して報告会の方が全てではなく、我々としてはむしろプロセスを重視してきたので、学校や事業所での学びはすごくよかったと思います。

ただ、来年度について考えてみると、5日間の事業所での体験という価値も認めると考えています。とは言いながらも、各学校のPTAが中心になり推進委員会が事業所にお願ひに行くのですが、このご時世で5日間はやっぱり無理とか、受入れは難しいということで、直接学校現場に電話をかけてくる事業者さんもあります。ま

た、今年の流れがとてもよかったので、ぜひやらせてほしいと電話をかけてこられた事業者さんもあります。ですので、同じ形にしなくてもいいと思っています。5日間事業所でやるところ、5日間事業所でやりながら提案型でするところなど、何かその辺りの橋渡しができないかということで今計画をしています。

- ・こちらが「行きたい、行きたい」と言っても、受入れ方の事情がありますので、よろしくをお願いします。

(学校教育課長の回答) 今本当に受入れが難しくなっていることはよく分かっています。校区によってもその辺りは全然違うので考えてまいりたいと思います。ご意見ありがとうございます。

1 5 質問及び討議の内容 (非公開)

議案第9号 加西市教育委員会事務局及び学校その他の教育機関の職員の人事異動
内示について

退職や異動になる事務局職員からの挨拶

1 6 議決事項 (非公開)

議案第9号 加西市教育委員会事務局及び学校その他の教育機関の職員の人事異動
内示について

原案どおり可決

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和5年3月29日

出席者

(出席者署名)